

J-クレジット制度管理者御中

実績確認概要書

平成 28 年 11 月 4 日

審査機関名 ビューローベリタスジャパン株式会社

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	留真の里交流施設への木質バイオマスボイラー導入事業
プロジェクト番号	KC0456
排出削減事業者名	浦幌町
排出削減共同実施事業者名	公益財団法人 北海道環境財団 (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	留真の里交流施設 (住所：十勝郡浦幌町字留真 177 番地 6)
事業の概要	新設する「留真の里交流施設」に、木質バイオマスボイラー（チップボイラー）を導入することにより、二酸化炭素排出量の削減を図る。
排出削減量の計画	2011 年度 351tCO ₂ /年 2012 年度 351tCO ₂ /年 (国内クレジット制度 事業実施期間合計 702tCO ₂) 2013~2018 年度 358tCO ₂ /年 (J-クレジット制度 事業実施期間合計 2,148tCO ₂)
クレジット 認証期間	開始日 2011 年 4 月 1 日 終了予定日 2019 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001-A 「ボイラーの新設」

2. 本実績確認の対象期間

2013 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日（第 3 回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	266tCO2 (2013年4月1日～2016年3月31日)
-------	-----------------------------------

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていること	<p>1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 第3回目のため該当なし。</p> <p>2) 対象期間中の設備稼働確認 新設された木質バイオマスボイラーは実績確認期間中、継続的に稼働していることを関係者への質問、ボイラーの燃料として使用される木質バイオマスの納品書に記載されたデータで確認した。</p>
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	<p>1) モニタリング方法の確認 木質バイオマスの含水量及び木質バイオマスの単位発熱量のモニタリング方法が計画から変更された。 変更に伴い、事業者より計画変更届が提出され、変更届けに対する確認書を検証機関で作成した。 その他については、関係者への質問、ボイラーの燃料として使用される木質バイオマスの納品書に記載されたデータの確認により、方法論及び承認排出削減計画に沿ってモニタリングが実施されていたことを確認した。</p> <p>2) 活動量の正確性 関係者への質問、ボイラーの燃料として使用される木質バイオマスの納品書に記載されたデータの確認により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、正確に集計されていることを確認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認 使用されている単位発熱量、排出係数等が、J クレジット制度モニタリング・算定規定（排出削減プロジェクト用）Ver.2.5、J-クレジット制度モニタリング算定規程 別冊</p>

	<p>Ver.1.0、方法論「EN-R-001 Ver.1.2」及び承認排出削減計画に従っていることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果を根拠資料と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。</p>
算定期間が移行期間内であること	<p>本実績確認の対象期間は、2013年4月1日から2016年3月31日までであり、排出削減量を算定した期間が2019年3月31日を超えないことを確認した。</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価（該当する場合）

今回の検証において承認排出削減事業計画からの重要な変更点があった。

1) 木質バイオマスの含水率 55(%)

計画では「燃料供給会社等のスペックシートをもとに算定」となっているが、本実績報告書ではJ-クレジット 方法論「EN-R-001 Ver.1.2」のデフォルト値が使用された。

2) 木質バイオマスの単位発熱量 16.6 (GJ/dry-t)

計画では「燃料供給会社等のスペックシートをもとに算定」となっているが、本実績報告書ではJ-クレジット 方法論「EN-R-001 Ver.1.2」のデフォルト値が使用された。

6. 特記事項

1) 確認した排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量について、熱量換算4,005.1GJであることを確認した。

2) 排出削減計画に対する排出削減量の乖離の理由について以下に示す。

- ・ 計画値と比較してチップの発熱量が小さくなったこと。
- ・ 計画値よりもチップの使用量が少ないこと。

以上